

2025 年 10 月 20 日

2025 年度「大学院生・若手研究者海外学会発表支援制度」の支援対象

日本社会心理学会

会長 西田 公昭

2025 年度「大学院生・若手研究者海外学会発表支援制度」の支援対象について、規程に従って下記のように選考を行いました。研究支援担当常任理事・山下玲子氏（東京経済大学）を委員長とし、谷口淳一氏（理事：帝塚山大学）、及川昌典氏（同志社大学）、高木彩氏（横浜国立大学）、樋口匡貴氏（上智大学）の各氏を委員とする選考委員会が構成され、慎重な審議をお願いしました。その結果、総応募件数 14 件の中から 10 名（大学院生の応募件数 13 件の中から 9 名、若手研究者応募件数 1 件の中から 1 件）を支援対象候補者として推薦することに決定しました。これについて、常任理事会および理事会にて審議の後、承認されました。

なお支援金額は、規程に従い「上限 10 万円、ただし、アジア以外の地域で開催される学会に現地で参加した場合の上限は、15 万円」とします。支援対象となる費目は、募集要項に示す通りです。支援対象者の皆さんは、発表の完了後、支援申請金額の根拠となる書類を添えて速やかに学会事務局に申請して下さい。

<支援対象者（申請受付順、敬称略、所属は申請時のもの）、発表題目、発表学会>

1. 大学院生

・宮崎 美保（広島大学大学院人間社会科学研究科 博士後期課程 2 年人文社会科学専攻 マネジメントプログラム）

Does Incivility Lead to Moral Disengagement?

(The 16th Biennial of Conference of Asian Association of Social Psychology. Monash University, マレーシア, 2025 年 7 月 10 日～7 月 12 日)

・原田 瑞穂（名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 博士前期課程 2 年）

Multiple Evaluator Estimations Reveal Persistent Negative Evaluations of Altruistic Behavior

(The 16th Biennial of Conference of Asian Association of Social Psychology. Monash University, マレーシア, 2025 年 7 月 10 日～7 月 12 日)

・柿本 航哉（東洋大学大学院社会学研究科社会心理学専攻 博士後期課程 2 年）

The Role of the Behavioral Immune System in Welfare Chauvinism: Variation in Its Impact by Recipients' Nationality

(The 2026 Annual Convention of the Society of Personality and Social Psychology, イリノイ州シカゴ、アメリカ合衆国、2026 年 2 月 26 日～2026 年 2 月 28 日)

- ・ 中村 沙椰 (大阪公立大学文学研究科人間行動学専攻心理学専修 博士前期課程 1 年)
Psychological Reluctance to Assume Responsibility in Moral Dilemma: A Socioecological Perspective on Moral Judgement and Inaction as a Default Strategy
(4th International Conference on Human and Artificial Rationalities, パリ、フランス、2025 年 9 月 16 日～2025 年 9 月 19 日)

- ・ 保毛 陽斗 (大阪公立大学大学院文学研究科 博士前期課程 1 年)
Cognitive Sophistication and Myside Bias: Why Highly Reflective Individuals Shy Away from Nuclear Power Debates in Japan
(4th International Conference on Human and Artificial Rationalities, パリ、フランス、2025 年 9 月 16 日～2025 年 9 月 19 日)

- ・ 恒松 杏 (名古屋大学大学院情報学研究科 心理・認知科学専攻 博士課程前期 1 年)
Uncovering implicit religiosity in folk religions: A natural language processing approach using social media data
(The 2026 Annual Convention of the Society of Personality and Social Psychology, イリノイ州シカゴ、アメリカ合衆国、2026 年 2 月 26 日～2026 年 2 月 28 日)

- ・ 呉 長憶 (大阪公立大学大学院文学研究科 博士後期課程 3 年)
The Influence of Intercultural Communication and Acculturation on Context Dependence
(The 2026 Annual Convention of the Society of Personality and Social Psychology, イリノイ州シカゴ、アメリカ合衆国、2026 年 2 月 26 日～2026 年 2 月 28 日)

- ・ 中井きらら (東洋大学大学院社会学研究科社会心理学専攻 博士前期課程 2 年)
Imagined contact may be difficult for the very individuals they are intended to target
(The 16th Biennial of Conference of Asian Association of Social Psychology. Monash University, マレーシア, 2025 年 7 月 10 日～7 月 12 日)

- ・ 汪 明琛 (玉川大学大学院脳科学研究科 博士後期課程 1 年)
Why does fighting strengthen social bonds? The role of oxytocin
(Society for Social Neuroscience 2025, リスボン、ポルトガル、2025 年 9 月 23 日～2025 年 9 月 26 日)

2. 若手研究者

- ・福林 直（お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター 講師）

Paradox of Career-Option Freedom: The Negative Effect of Overload by Abundant Career Information and Choice on Career Satisfaction

（18th International Congress of Behavioral Medicine, ウィーン、オーストリア、2025 年 8 月 6 日～9 日）

以上